

南魚沼市は豪雪地帯のため、雪の重みで木の根元が曲がってしまう「根曲り」の木が多く、建築用材の生産には長期間を要する地域。また、豪雪地帯で冬期間は森林での作業が困難となるため森林技術員は12月上旬から4月中旬までは解雇される期間雇用形態になっている。しかし、雪に耐えた木が強度としなやかさを持つように、期間雇用は冬場、近隣のスキー場で働いている若者にとっては、スキー場の仕事がない時期に働ける、理想的なワークスタイル。県外からの希望者も多く、毎年、4名以上の森林技術員を採用している。最初はそれほど林業に興味を持っていなかった若者も実際に現場に出て、ベテラン技術員たちによる見事な技術や知識に触れることによって、プロ意識を高めていくという。組合では、近年、「プロジェクトの森プロジェクト」の活動にも関わり、周辺の森のブナの植樹や地元の間伐材を使ったフリーペーパー、ボードウォーク(木道)材を提供。若者たちへ森の魅力をアピールするにも一役買っている。

冬場スキー場で働く若者に理想的なワークスタイルを実現



フォワーダ搭載のグラップルは、両手両足を使った複雑な操作で技術力が問われる。材の長さや太さを把握した上で、バランス良く荷台に並べる中嶋さん



①道端に木材を揃えておくまでが今回の仕事。積み込みはトレーラーの運転手が行っている ②グラップルで荷台に積んだ玉切りした木材を、フォワーダに積み込み、移動する ③作業道を開設し、間伐した木材を搬出していた林産班チームの4名。休憩時はこんなごやかなムード



緑の担い手を目指そう! にいがた山しごと情報誌

Niigata Forestry Magazine



林業事業体レポート File 10

南魚沼森林組合

【南魚沼市】



④丸太をつかんで移動させる重機、グラップルの導入で作業効率アップ ⑤このように木材を一度に何本もつかんだまま、角度を変えられるのがグラップルの強み ⑥林産班では、全員が重機のオペレーター。どの機械でも乗りこなす

